

# 経営比較分析表

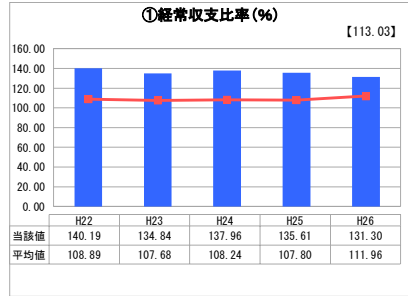
熊本県 合志市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	70.27	98.67	2,590

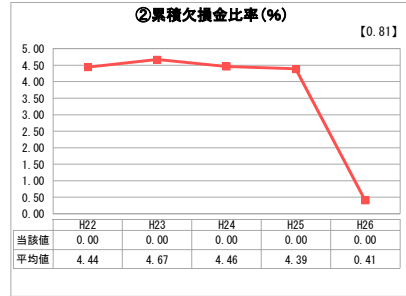
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
58,873	53.19	1,106.84
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
58,275	38.73	1,504.65

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
□ 平成26年度全国平均

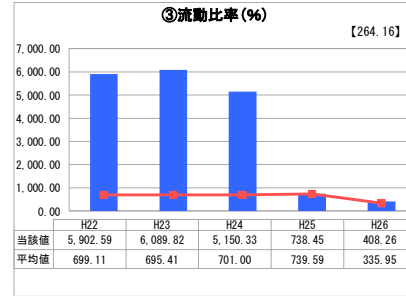
## 1. 経営の健全性・効率性



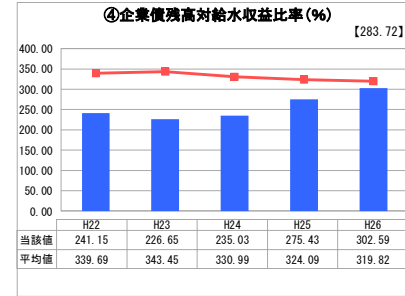
「経常損益」



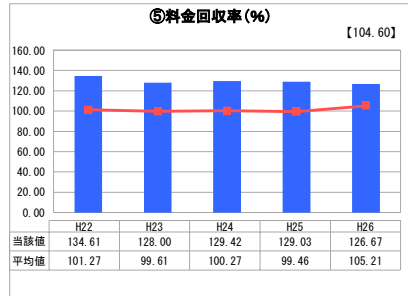
「累積欠損」



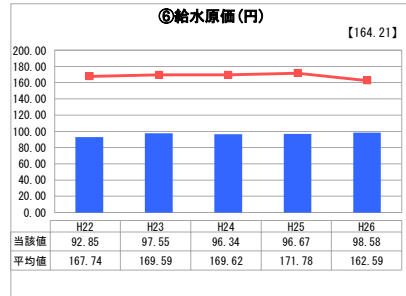
「支払能力」



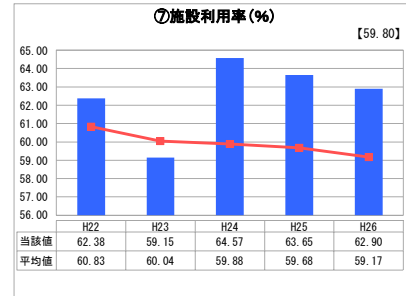
「債務残高」



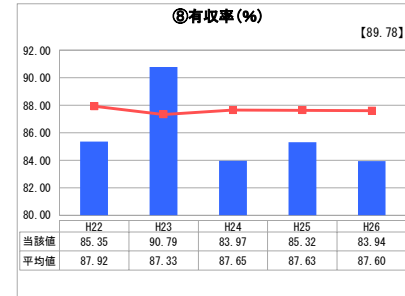
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

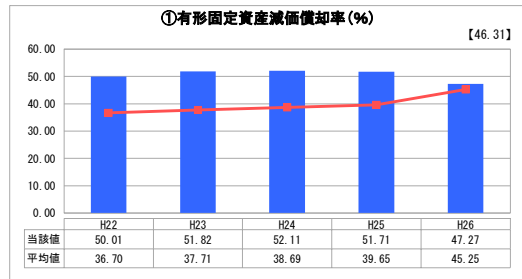


「施設の効率性」

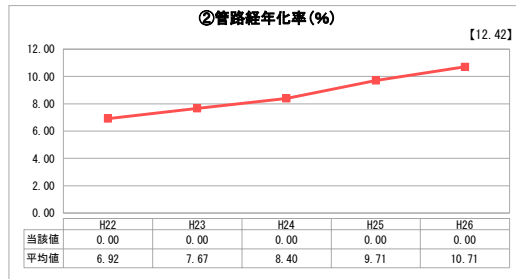


「供給した配水量の効率性」

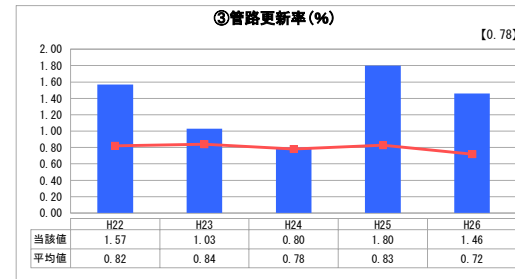
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

【現状】  
経営の健全性・効率性を示す指標は、概ね良好な水準にあるといえますが、有収率については、平成23年度を除けば、類似団体平均値及び全国平均値を下回っている状況です。また、複数の要因により、H25以降に流動比率の低下が見られます。

【要因】  
配水管の老朽化に起因する漏水があるものと考えており、毎年漏水調査を実施し、管の漏水修繕等に取組んで来たところです。  
〔過年度決算における配水及び給水費(税抜)〕  
H26 24,595千円  
H25 31,459千円  
H24 27,097千円  
一方、H25の流動比率低下は、配水池施設の整備・更新に伴う建設改良費の増加に伴って未払金が増加したことが主な要因で、H26の低下は建設改良積立金の取崩しや制度改正の影響によるものです。

【今後の対策】  
配水管の漏水は、短期間で改善できるものではありませんが、引き続き調査、修理を継続します。  
〔配水及び給水費の見込(税込)〕  
H27 35,749千円  
H28 35,749千円  
流動比率は、当分の間今と同程度の水準を確保する見込です(H27 444.56%、H28 622.7%)。

### 2. 老朽化の状況について

類似団体平均値及び平成26年度全国平均値を若干上回っていて、老朽化がやや進んでいることが伺えます。今後は、水道施設(特に配水池)の整備増強とともに小規模配水池施設の統廃合を進める計画です。

## 全体総括

有収率の低迷もあって、管渠の布設替え工事も毎年行っているところでも。もっともここ数年は、簡易水道と上水道の統合、御志第2配水池及び木原野配水池の築造も行っているため、管路更新だけでなく、全体的な水道水の安定供給に関わる配水機能の改善にも取り組まなければならない時期に来ており、管路更新への投資をやや抑制せざるを得ない状況です。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。